

**第35回 日本医療薬学会年会  
メディカルセミナー9**

**病診薬連携のさらなる深化が  
地域医療を変える原動力を生み出す  
～心不全治療におけるPHR活用事例～**

2025年

**11月22日(土)12時～13時**

会場：第13会場 600席

(神戸ポートピアホテル本館 B1F 偕楽1+2)

**座長：寺園 英之 先生**

鹿児島大学病院薬剤部 教授・薬剤部長

**演者：兼重 晋 先生**

福岡大学病院薬剤部 教授

**共催：第35回日本医療薬学会年会  
東和薬品株式会社**

# 病診薬連携のさらなる深化が 地域医療を変える原動力を生み出す ～心不全治療におけるPHR活用事例～

## 兼重 晋 先生

福岡大学病院薬剤部 教授

少子高齢化の進行や医療従事者の地域偏在が進むなか、持続可能な地域医療連携の構築は喫緊の課題となっている。こうした背景を踏まえ、病院・診療所・薬局が連携し、地域完結型医療を実現する「病診薬連携」の重要性が一層高まっている。特に、ICTの進展や医療DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進により、これまで困難であった医療情報の共有が、徐々に現実のものとなりつつある。

本講演では、心不全患者を対象としたPHR（PERSONAL HEALTH RECORD）活用の事例を紹介しながら、病診薬連携の深化が地域医療にもたらすインパクトについて考察する。心不全のような慢性疾患においては、再入院の予防やポリファーマシー対策の観点から、継続的かつシームレスな薬物治療管理が不可欠である。

こうした中、薬局薬剤師が発信するトレーシングレポートは、服薬アドヒアランスの評価や副作用の兆候の早期発見といった点において、重要な役割を果たしている。

このような双方向の情報共有が進むことで、医療機関におけるモニタリング精度の向上や、地域全体における医療の質の向上が期待される。

さらに、リフィル処方箋や電子処方箋に関する最新の取り組みについても紹介し、病院薬剤師として地域医療にどのように貢献できるのかを多角的に掘り下げ、今後の実践につながるヒントを皆様と共有したい。

**共催：第35回日本医療薬学会年会  
東和薬品株式会社**